

# 財団いづも

第 25 号

発行所  
 公益財団法人いづも財団  
 〒699-0701  
 島根県出雲市大社町杵築東283  
 大社國學館内  
 TEL 0853-31-4346  
 FAX 0853-31-4348  
 info@izumozaidan.or.jp  
 編集発行人  
 山崎 裕 二

## 赤鞘の大刀



(金銀装振環頭大刀：復元品)

きんぎんそうわじりかんとうたち  
(金銀装振環頭大刀：実物)

(写真提供：出雲市文化財課)

科学の力が解き明かした「赤鞘の大刀」

理事長 古瀬 誠

近年の考古学は、科学技術の力を導入した研究が進められ、その研究成果には目を見張るものがあります。出土品にX線や光学顕微鏡などの「科学の眼」を取り入れることにより、「人間の眼」では見ることができなかったものが見えるようになりました。

出雲市内に上塩冶築山古墳という大きな古墳があります。国史跡の円墳で、副葬品は重要文化財に指定されています。その副葬品の中に、六世紀末に製作されたと考えられる大刀があります。「金銀装振環頭大刀」と厳めしい名が付けられています。何しろ今から千五百年も前の大刀なので、下段写真のように腐食が進み、その原形はこれまでよくわかりませんでした。

出雲市文化財課では、令和四年から奈良県立橿原考古学研究所と共同で、透過X線撮影・蛍光X線分析・光学顕微鏡観察などの科学の力を利用した研究を進め、多くの情報を得ました。

その結果、この大刀は全長一二三cmと推定され、鞘木には布が巻かれ、その上に赤色顔料が塗られていることがわかりました。赤色顔料とは水銀朱のことで、当時は大変に貴重なものでした。また、鞘の諸所に金銅板の飾りがつけられていることから、通称「赤鞘の大刀」と呼ばれています。それを復元したものが、上段写真です。古墳時代の「黒鞘の大刀」は各地から出土していますが、「赤鞘の大刀」はこれが最初のものであり、全国から注目されています。果たして、この大刀がどのような出雲の歴史を語ることになるのか、今から楽しみです。

出雲ではこれまで、荒神谷遺跡(銅剣)や加茂岩倉遺跡(銅鐸)、出雲大社境内遺跡(巨大柱)などの全国的な大発見がありました。一方では発掘された出土品にも「科学の力」を導入することにより、今回のような思わぬ新発見があるかもしれません。出雲の考古学研究から目が離せなくなりました。



公開講座

# 「中世出雲の歴史と地域文化」が終了

「出雲の歴史文化を学ぶ！」シリーズの第三弾として、今年度は「中世出雲の歴史と地域文化」をテーマに取り上げ、公開講座を開講し、二月に全五回を終了しました。前号に続き第二回目以降の講座の概要をお知らせします。



(大社文化プレイスうらら館)

第二回講座 (令和五年十月七日(土)) 受講者数 五九名

## 主題 出雲の国人領主と尼子氏の国内統一

演題 A 山城からみた出雲の国人領主たち

講師 高屋 茂男 先生



(島根県立八雲立つ風土記の丘所長)

出雲では「尼子十旗」と呼ばれる有力国人たちの山城がよく知られていますが、それ以外にも多くの山城があります。高屋先生は、「虎口」「曲輪」「馬出し」

「堀切り」など山城の名称や機能も教えていただきました。また、山城は軍事要塞面が強調されますが、先生は経済的側面にも着目して話していただきました。受講者にとって山城を見る視点が増えたのではないかと思います。この講演をきっかけにして、山城や国人領主への関心が深まることを期待しています。

演題 B 尼子氏の強大化と領国経営

講師 山根 正明 先生

(島根県中世史研究会世話人)



応仁の乱が起こるまでは出雲国の守護代に過ぎなかった尼子氏が、権力を掌握するまでを日本史全体の流れの中で説明していただきました。尼子氏は、他の有力国人領主を討滅したり、一方では姻戚関係を利用して支配下に組み込み、権力基盤を固めていったとのことでした。また、経済的基盤として奥出雲(横田)の鉄を重視したとの説明もありました。戦国大名がその権力基盤を構築していくために、様々な手段を講じていることを教えていただきました。

第四回講座 (令和五年十二月十七日(日)) 受講者数 五〇名

## 主題 中世出雲の水運の発達と尼子氏の対外交易港

演題 A 中世出雲の水運の発達と港湾都市

講師 長谷川 博史 先生(島根大学教育学部教授)



中世出雲の水運について、当時の水運の特質は外海(日本海)ばかりではなく内海(中海、宍道湖)や河川舟運の三つが相互補完しながら船運が行われていたことを教えていただきました。また、その結節

点に該当するところに港湾都市が成立したとのことでした。戦国期になると、西日本海を含む東アジア海域の物流の活発化が、出雲の港湾都市の活性化と連動していることも指摘いただきました。近年の学問研究の成果も組み込み、ダイナミックな中世出雲の水運を論じていただきました。



演題B 尼子氏の対外交渉港として栄えた宇龍浦と出雲鉄

講師 岩成 俊策 先生

(島根県立島根中央高校教諭)



今日では何の変哲もない一漁港である宇龍浦が、五〇〇年前には日本海岸屈指の交易港であったことを、日御碕神社文書や小野家文書を使って具体的に説明していただきました。当時の宇龍浦には、因幡や丹波などからの船や北国舟、後期倭寇の唐船(ジャンク船)など様々な船舶が「出雲鉄」を求めて入港していました。先生は、このような戦国期の宇龍浦の発展を、出雲鉄の積出港というばかりではなく、「自立的な海民」の力や都市杵築との関連からも話していただきました。

第五回講座(令和六年二月二十四日(土)) 受講者数 六三名

主題 毛利氏の出雲進出と杵築商人

演題A 出雲大社領と日御碕神社領の毛利氏刀狩

講師 山崎 裕二 先生

(公益財団法人いづも財団事務局長)



出雲大社領と日御碕神社領の毛利氏刀狩についてご講演いただきました。

先生によりますと、毛利氏は村々から武器を根こそぎ取り上げるのではなく、有力農民から刀・脇指をワンセットで差し出させ、それを改めて渡したということでした。毛利氏のこのような政策は、帯刀によって村の支配者(有力農民)と一般農民とを分ける身分対策だったとの説明がありました。「刀狩の実施は一揆対策である」という通説は、全国すべての地域に該当しないことを教えていただきました。

演題B 毛利氏公領の年貢米を管理した杵築商人たち

講師 倉恒 康一 先生

(島根県文化財課世界遺産室専門研究員)



富田落城後、出雲国には神門郡、縦縫郡、飯石郡などに毛利家の直轄地が指定されました。その直轄地の年貢米の管理・運用を任されたのが、「杵築御蔵本」と呼ばれる有力商人たちでした。上田氏や杉谷氏、江角氏、板倉氏、平田屋などです。板倉氏(塩冶町)と平田屋(平田町)は外部からの新規参入商人です。杵築には毛利家からの特権や莫大な利益を求めて、有力商人がひしめく魅力ある町でした。しかし毛利家からいくら特権を得ても、杵築に居住する限りは、あくまでも国造家の配下にすぎなかつたということをお話していただきました。

助成金交付事業報告書が

発行される!

いづも財団では、会員の皆様方からの寄附金を島根県内の歴史や伝統文化の保存・継承に活用しています。毎年度、さまざまな事業に助成金を交付し、事業終了後に報告してもらっています。令和五年度には、同二年度から二年間に亘って実施された事業を一冊にまとめました。

法人会員や高額寄附者にはすでにお送りしましたが、残部が少しありますので、ご希望の方は財団事務局までご連絡ください。





令和  
6年度

# いづも財団公開講座のご案内

令和3年度から令和8年度までの6年間をかけて、「出雲の歴史と地域文化」をテーマに、原始・古代から近・現代までの出雲の歴史・文化についての公開講座を開講しています。どなたでも受講できます。多くの皆様のご参加をお待ちしています。なお、やむを得ず中止になる場合もあります。最新の情報は、いづも財団ホームページをご覧ください。

## 第Ⅳ期「近世出雲の歴史と地域文化(上)」

無料

会場は、いずれも **大社文化プレイスうらら館(出雲市大社町杵築南1338-9)** です

※定員 各130名

### 第1回

6月8日  
土

13:30 ~ 16:10

#### 講座テーマ▶「富田城から松江城へ」

##### A 富田城から松江築城へ

やまね まさあき  
山根 正明(島根県中世史研究会世話人)  
関ヶ原の合戦後に出雲・隠岐へ入部した堀尾氏は、富田から松江に居城と城下町を移転した。その理由と背景を、水の恵みとその活用、水への恐れとその対策から考える。

##### B 松江城の魅力と国宝指定までの道のり

きのした まこと  
木下 誠(松江市文化スポーツ部松江城・史料調査課係長)  
松江城は平成27年に国宝に指定された。全国各地に城郭がある中で、どうして松江城が国宝に指定されたのかその理由を説明する。また明治維新期を経て国宝に指定されるまでの経緯について紹介する。

### 第2回

8月10日  
土

13:30 ~ 16:10

#### 講座テーマ▶「斐伊川の流路の変更と出雲平野の大開発」

##### A 三木与兵衛の開発と斐伊川の流路変更

たくた ともひで  
多久田 友秀(出雲市文化財保護審議会委員)  
中世から近世初頭の斐伊川は東西両流し、その周辺地域はたびたび洪水に見舞われた。その頃の西出雲地域の景観や三木与兵衛など水田開発を知らせるとともに、斐伊川東流の時期がいつ頃かについて考える。

##### B 松江藩による出雲平野の大開発と大槻七兵衛

たくた ともひで  
多久田 友秀(出雲市文化財保護審議会委員)  
斐伊川の東流により、西出雲平野は渴いた大地となった。松江藩は石高増収をめざして、この地の大開発を行った。地方巧者と知られた大槻七兵衛の活躍を知らせるとともに、その後の西出雲平野の変貌について考える。

### 第3回

10月5日  
土

13:30 ~ 16:10

#### 講座テーマ▶「日御碕神社と出雲大社の画期的な造営遷宮」

##### A 日御碕神社の造営遷宮と造営前の町屋大火災

やまさき ゆうじ  
山崎 裕二(公益財団法人いづも財団事務局長)  
1635年に日御碕神社は幕府から銀1200貫文(約120億円)を下賜されて造営遷宮を行ったが、町屋の大火災問題など様々な困難を乗り越えての造営遷宮であったことを紹介する。

##### B 出雲大社の寛文造営と神仏分離

おか こうそう  
岡 宏三(島根県立古代出雲歴史博物館専門学芸員)  
近世出雲大社の造営遷宮は慶長・寛文・延享年間と3回に亘って行われたが、最も大規模な造営は1667年の寛文造営である。この造営遷宮は我が国最初の神仏分離した神社であり、出雲大社の地位を向上させた造営遷宮である。寛文造営遷宮のもつ意味について考える。

### 第4回

12月7日  
土

13:30 ~ 16:10

#### 講座テーマ▶「出雲のたたら製鉄と製鉄遺跡」

##### A たたら製鉄と松江藩の鉄山統制

かくた のりゆき  
角田 徳幸(雲南市教育委員会文化財課課長)  
たたら製鉄とはどのような製鉄方法か、また、たたら製鉄にはどのような人々が関わったか。松江藩は製鉄を推進したが、一方でさまざまな規制も行った。その理由について考える。

##### B 田儀櫻井家とたたら製鉄遺跡

いしはら さとし  
石原 聡(出雲市文化財課係長)  
たたら製鉄は実際にはどのように行われたか、また山内で働く人々はどのような暮らしを営んでいたかなどを遺跡や遺物から説明する。また鉄製品はどこへどのように売りさばいたかなどの経営戦略を考える。

### 第5回

令和7年  
2月15日  
土

13:30 ~ 16:10

#### 講座テーマ▶「松江藩の藩政改革と武道の推進」

##### A 雷電為右衛門と松江藩お抱え力士

しながわ としひこ  
品川 知彦(島根県立古代出雲歴史博物館前学芸部長)  
松江藩は雷電為右衛門をはじめとして江戸期の番付上位力士を「お抱え力士」とし、生涯にわたって物心両面の生活支援をした。松江藩はどうしてそのようなことをしたのか、その理由について考える。

##### B 松江藩の藩政改革と松平治郷(不昧)

こはやし じゆんじ  
小林 准士(島根大学法文学部教授)  
7代藩主治郷(不昧)は、財政改革を進め、藩財政は好転した。豊かな藩財政のもとに治郷は茶の湯など江戸文化を当地に広めたが、庶民に対しては質素儉約を強いた。このような治郷の藩政改革について考える。

1) 演題・講師は、変更になる場合があります。 2) 講演時間はそれぞれ70分間です。

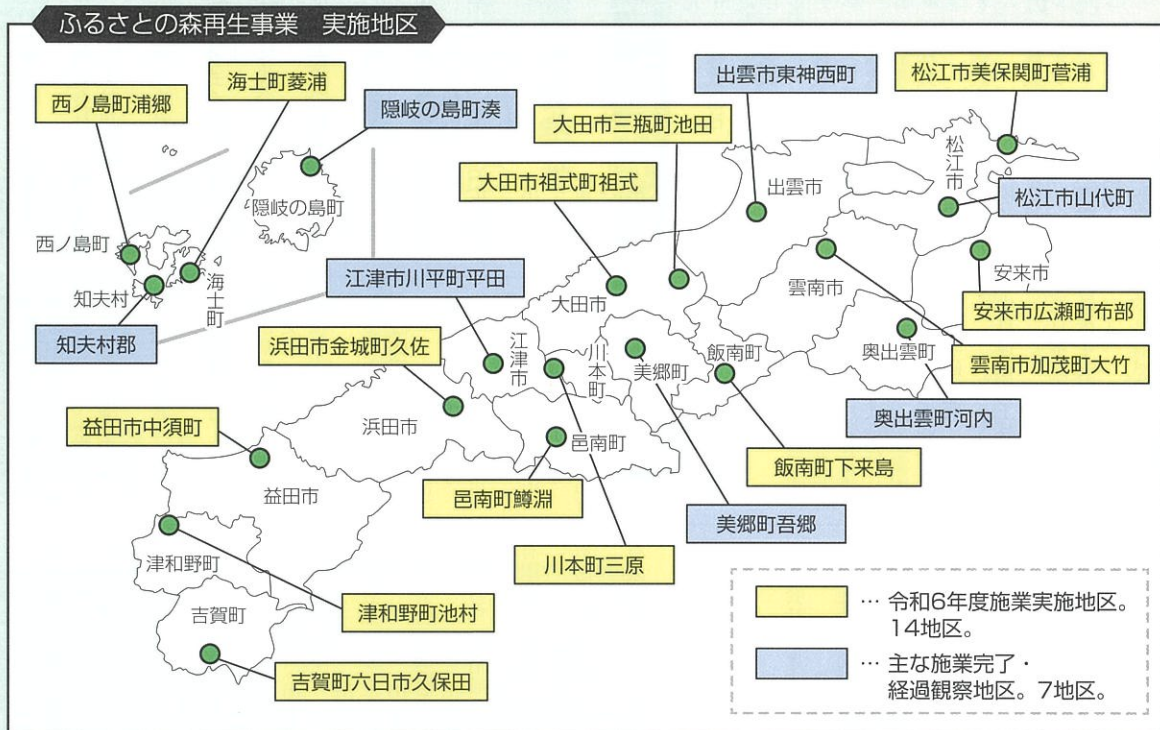
受講ご希望の方は、いづも財団事務局までお申し込みください。ご希望の講座のみの受講も可能です。

なお、お申し込みの際には、氏名、連絡先、電話番号、希望する講座をお知らせください。随時、受け付けています。



# 「ふるさとの森」を 島根県全域に広げています!

出雲大社「平成の大遷宮」を記念し、平成25年度から始まった「ふるさとの森再生事業」も12年目を迎えました。令和6年度は県内13市町14地区で本事業が実施される運びとなりました。既に主な施業を終えた地区もありますが、今後も森林の育成状況を観察するとともに、地域の皆様に親しまれ、末永く継承されていく森林へと後押しできるよう、各市町村の皆様と共に広報活動や森林の活用にも力を注いでまいります。



**■事業対象地**

県内の民有林。ただし、県有林、分収林は除く

**■区域面積の規模**

1 施業区域当たり10～50haを目安とする。ただし、H27採択から10ha未満であっても可

**■補助事業者**

県内の市町村

**■助成内容**

- 施業に必要な経費
- 施業実施に必要な調査費
- 案内板等設置費
- 森づくり活動等経費

**■助成金の交付率**

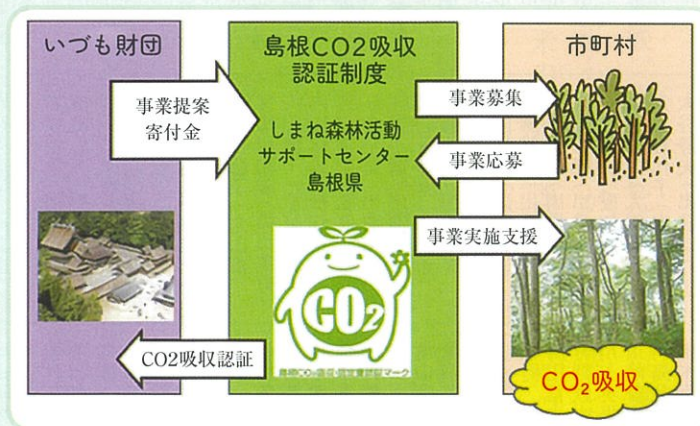
事業に必要な経費の10分の10以内

**■事業期間**

平成25年度から

**■事業費総額**

820,000千円









北井征二(兵庫県)  
北井武志(出雲市)  
北島建孝(出雲市)  
北原郁子(松江市)  
北吉チヨミ(大阪府)  
木村進(出雲市)  
共同店(大國美矢子)  
喜和田公二(出雲市)  
金時堂株式会社  
金鳳酒造有限公司  
草谷和子(出雲市)  
熊山仁志(邑南町)  
黒田郁子(出雲市)  
黒目潤子(出雲市)  
桑原健一(出雲市)  
桑本 巖(出雲市)  
小池清尹(出雲市)  
神門貞良(出雲市)  
神門應勝(出雲市)  
幸野谷昌人(京都府)  
郷原 勇(雲南市)  
小梶小百合(出雲市)  
小梶輝枝(出雲市)  
後藤 博(松江市)  
後藤昌弘(出雲市)  
小林一生(出雲市)  
小林祥泰(出雲市)  
古福克彦(出雲市)  
小松博幸(出雲市)  
木幡育夫(松江市)  
木幡 均(松江市)  
小松原 優子(出雲市)

佐藤巻良(出雲市)  
品川知彦(松江市)  
篠原春夫(三重県)  
志摩茂樹(山形県)  
シマネヤ眼鏡店(飯島  
健太)(出雲市)  
清水義久(神奈川県)  
昌子宗賢(松江市)  
神社ガールズ研究会  
(河野美知)(松江市)  
新 博治(広島県)  
新 安祐(広島県)  
新宮清志(東京都)  
宍道正年(松江市)  
新藤正春(出雲市)  
杉谷 城(奈良県)  
杉谷寿之(出雲市)  
杉原元治(出雲市)  
杉本 照(和歌山県)  
須佐和夫(出雲市)  
須佐公和(出雲市)  
鈴木登美子(神奈川県)  
鈴木益彦(松江市)  
須谷 洋(出雲市)  
周藤祥三(出雲市)  
角 篤(出雲市)  
陶山 篤(出雲市)  
妹尾佳人(出雲市)  
妹尾佳明(東京都)  
千家昭子(出雲市)  
千家礼子(出雲市)  
千家活彦(東京都)  
千家国麿(出雲市)  
千家統子(東京都)  
千家尊祐(出雲市)  
千家真彦(大阪府)  
千家寛彦(神奈川県)  
千家隆比古(出雲市)  
千家典子(出雲市)  
千家徳比古(出雲市)  
千家幸子(大阪府)  
千家由美(出雲市)  
千家和比古(出雲市)  
千家敬雄(大阪府)  
曾田明雄(大田市)  
曾田賢一(出雲市)  
曾田暢雄(出雲市)  
曾田安信(出雲市)  
園山和美(出雲市)  
園山孝司(出雲市)  
園山暢男(出雲市)

園山幹生(埼玉県)  
園山雄一郎(出雲市)  
園山幸雄(松江市)  
高木玄明(出雲市)  
高木秀輝(出雲市)  
高野一三(出雲市)  
高橋敏道(出雲市)  
高橋朋子(東京都)  
高橋裕子(出雲市)  
高橋正和(出雲市)  
高橋成知(出雲市)  
高見初彦(出雲市)  
竹下孝子(松江市)  
竹下忠幸(出雲市)  
竹下正孝(出雲市)  
武田寿博(出雲市)  
武田紀子(出雲市)  
竹並 清(茨城県)  
多々納テール(出雲市)  
多々恵音頭保存会  
(安曇公美)(出雲市)  
立花佑祥(出雲市)  
立花直明(出雲市)  
田中和彦(出雲市)  
田中勝洋(長崎県)  
田中富雄(出雲市)  
田邊達也(出雲市)  
谷本隆臣(大田市)  
多根美奈子(出雲市)  
玉井浩邦(松江市)  
玉木屋印刷(青木治)  
(出雲市)  
千熊正憲(大阪府)  
茶三代 三代朱美  
(出雲市)  
土江志朗(出雲市)  
津戸弘光(出雲市)  
津戸雅志(東京都)  
常松 豪(出雲市)  
都間正隆(雲南市)  
鶴見 誠(出雲市)  
手銭辰尚(出雲市)  
手銭白三郎(出雲市)  
手銭 豊(出雲市)  
出水明子(大阪府)  
藤間 武(出雲市)  
富岡由美子(東京都)  
豊田啓司(松江市)  
内藤篤雄(出雲市)

内藤久義(出雲市)  
直良昌幸(出雲市)  
中泉 淳(東京都)  
中尾克行(出雲市)  
中尾健二(出雲市)  
長岡呉服店(出雲市)  
長岡 栄(出雲市)  
永岡達孝(出雲市)  
長岡義孝(東京都)  
長廻三枝子(出雲市)  
中島雄三(出雲市)  
中筋映子(出雲市)  
中筋豊通(出雲市)  
中筋廣昭(松江市)  
中筋雄三(出雲市)  
永田悦子(出雲市)  
永田靖一(大阪府)  
永田正巳(出雲市)  
永田幸弘(出雲市)  
中道饒一(広島県)  
中山光夫(邑南町)  
柳楽愛子(出雲市)  
柳楽正雄(出雲市)  
成相和代(出雲市)  
成相有一(出雲市)  
西家秀夫(出雲市)  
西尾哲郎(出雲市)  
西岡敦子(岡山県)  
西岡和彦(神奈川県)  
錦田剛志(出雲市)  
錦田充之(出雲市)  
錦織裕之(出雲市)  
西田新治(福岡県)  
野田 清(出雲市)  
野津登美子(出雲市)  
登川文一(沖繩県)

土方幸子(出雲市)  
日野 正(出雲市)  
日比谷 勝(松江市)  
平岡邦彦(出雲市)  
ひらの屋 平野裕二  
(出雲市)  
廣江俊邦(松江市)  
廣澤將城(出雲市)  
福川裕徳(高知県)  
福田橋実香(出雲市)  
福田隆男(出雲市)  
福田文夫(鳥取県)  
福田真喜子(出雲市)  
福田 実(出雲市)  
福間 進(大阪府)  
福間崇夫(出雲市)  
福間利行(出雲市)  
福間質文(出雲市)  
福村範子(松江市)  
藤井健司(出雲市)  
藤井孝三(出雲市)  
藤井文治(広島県)  
藤井隆弘(広島県)  
藤井寿男(出雲市)  
藤井正成(広島県)  
藤井雄治(出雲市)  
藤井幸恵(出雲市)  
藤井 豊(出雲市)  
藤江啓子(出雲市)  
藤田佳子(千葉県)  
藤原久一(奥出雲町)  
藤原章司(出雲市)  
藤原秀彬(出雲市)  
藤村八郎(出雲市)  
藤本和人(山梨県)  
藤本 祥(埼玉県)  
藤本 剛(出雲市)  
布野克己(出雲市)  
古瀬修一(松江市)  
古瀬智彦(松江市)  
古瀬俱之(出雲市)  
古瀬麻美(愛知県)  
古屋勤士(出雲市)  
古山房雄(松江市)  
古山勇樹(雲南市)  
別火龍一(出雲市)  
別所親房(京都府)  
別所豊夫(出雲市)  
細木辰幸(雲南市)  
本田研治(出雲市)

前田流治(出雲市)  
横原政治(出雲市)  
増浦行仁(大阪府)  
松井邦江(出雲市)  
松井恵治(出雲市)  
松井笙梧(東京都)  
松井周子(出雲市)  
松井裕子(出雲市)  
松井好夫(出雲市)  
松崎忠司(奥出雲町)  
松崎道子(出雲市)  
松崎みどり(奥出雲町)  
松崎幸枝(奥出雲町)  
松戸恵美子(出雲市)  
松永寿江(松江市)  
松野亘芳(岐阜県)  
松原廣美(出雲市)  
松本岩雄(松江市)  
松本健志(出雲市)  
松本俊憲(出雲市)  
松本敏浩(出雲市)  
松本倫枝(大田市)  
的野克之(益田市)  
水野二郎(滋賀県)  
馬庭孝司(出雲市)  
三成礼次(兵庫県)  
三原順一(出雲市)  
三原伸二(出雲市)  
三村智彦(千葉県)  
宮崎照司(静岡県)  
宮澤雄介(雲南市)  
宮本齋充(出雲市)  
宮本泰行(出雲市)  
森 眞史(松江市)  
森口正夫(邑南町)  
森廣 操(出雲市)  
森本 いく子(松江市)  
森本 淳(松江市)  
森本直知(出雲市)  
森山公晴(出雲市)  
森山真吉(出雲市)  
森山裕司(出雲市)  
森山由美(出雲市)  
矢島健一(千葉県)  
矢田和則(出雲市)  
矢田信一(出雲市)  
奴(原田優)(出雲市)  
山崎敦子(出雲市)

山崎一夫(出雲市)  
山崎敦子(出雲市)  
山崎茂樹(出雲市)  
山崎七重(出雲市)  
山崎延行(出雲市)  
山崎裕二(出雲市)  
山下 信(鹿児島県)  
山根正明(松江市)  
山根宮子(出雲市)  
山根幸文(出雲市)  
山本章治(大阪府)  
山本智幸(東京都)  
山本 浩(東京都)  
山本勇二(出雲市)  
山本 豊(京都府)  
八幡一寛(大田市)  
有限会社 ギフトなが  
さ(出雲市)  
祐源澄子(出雲市)  
祐源泰成(出雲市)  
横山雅樹(岡山県)  
吉川 敏夫(出雲市)  
吉川 實(出雲市)  
吉田勝彦(出雲市)  
吉田敏夫(出雲市)  
吉田安子(出雲市)  
吉田利江(雲南市)  
吉原每文(東京都)  
珍部千裕(神奈川県)  
若月剛久(出雲市)  
若槻俊二(出雲市)  
若槻芳充(出雲市)  
和田晶夫(出雲市)  
和田晋爾(松江市)  
和田節子(出雲市)  
和田統彦(松江市)  
和田秀穂(出雲市)  
渡邊憲治(京都府)  
渡邊喬士(出雲市)  
渡部良治(出雲市)  
渡部良平(松江市)  
その他  
匿名(東京都)  
(個人会員計四八一名)

寄 附  
津戸弘光(出雲市)  
林 秀樹(出雲市)  
吾郷紘一(出雲市)  
大社史話会(出雲市)  
亀山美雪(出雲市)  
吉田敏夫(出雲市)  
株式会社ミュージック  
オフィス河井(出雲市)





# あなたが支える「出雲」文化！

先人たちから受け継いだ美しい自然風土や歴史、伝統文化を現代に生かして地域の活性化に結び、それを子孫に橋渡しをする担い手になることを使命とします。

## 会員を募集しています！

### ◆入会について

会費は、年度制（4月～翌年3月）です。いつでも入会できます。

※「出雲」文化を愛し、文化の保存継承に賛同いただける方は、どなたでも会員になれます。  
(注)ここでいう「出雲」とは狭義の出雲ではなく、隠岐から石見までを含む幅広い地域を想定しています。

### ◆会員の種類・年会費

正会員（個人）一口 2,000円 正会員（法人）一口 20,000円（何口でも結構です。）

### ◆会員の待遇

- 会員証をお送りします。
- 下記の協賛施設にて会員証を提示いただくと、優遇措置が受けられます。
  - ・出雲大社宝物殿（拝観料無料、翌年4月末まで有効です）
  - ・出雲文化伝承館、平田本陣記念館（観覧料100円引き）
- 定期的に会報「財団いづも」をお送りします。
- 3口以上の年会費をお納めいただいた個人会員には、会報にあわせて直近に出版した著書（いづも財団叢書）を贈呈いたします。

### ◆入会方法

- 1、会員申込資料を電話かファックス、葉書、メールにてご請求ください。  
または、直接いづも財団事務局までおいで下さっても結構です。
- 2、送付された入会申込書に必要事項をご記入のうえ、返信用封筒またはファックスにてお送りください。
- 3、下記口座のいずれかへ会費をお振込ください。

【郵便局】（現金振込みの場合は加算料金がかかります）

同封の郵便局払込票にてお振込ください。

郵便振替口座番号

01360-9-55417

口座名「公益財団法人いづも財団」

（コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン）

【銀行】（手数料はご負担願います）

山陰合同銀行 大社支店

普通 3628973

口座名「公益財団法人いづも財団」

（コウエキザイダンハウジン イヅモザイダン）

### お問い合わせ

〒699-0701 島根県出雲市大社町杵築東283 大社國學館内 公益財団法人 いづも財団事務局

電話：0853-31-4346

FAX：0853-31-4348

E-mail：info@izumozaidan.or.jp



いづも財団公式HP